

緑

音楽とアートの情報誌
緑のアーティスト

のARTIST

JUNE.2005

1

A9



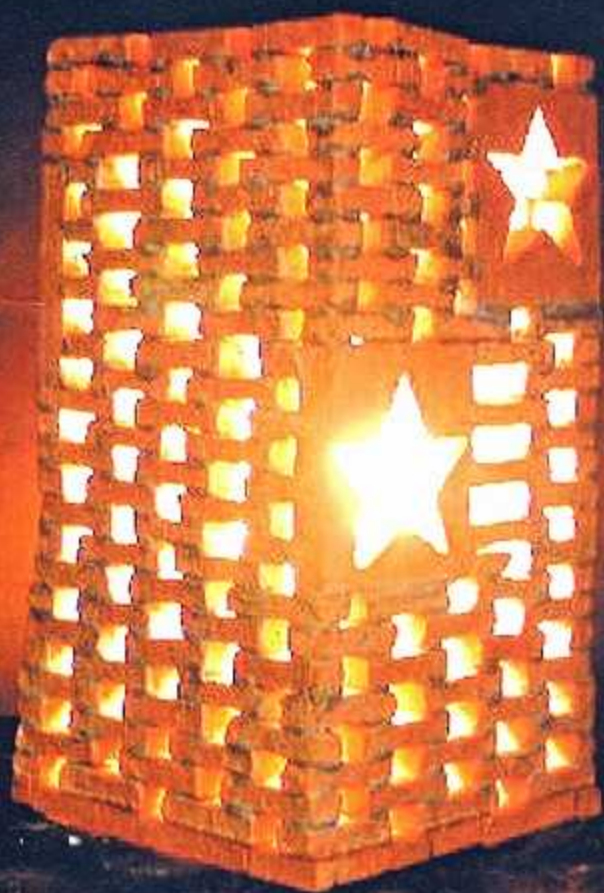
特集

理事長／全国支部長が語る

日本の吹奏楽

自然豊かなニュージーランド・ロトルアで開催

ロトルア緑の展覧会



みんながアーティスト



LANP SHADE

ランプシェードの制作



ぬくもりのある灯り

奈良県立桜井高等学校 中川 賢照



この講座は、プロを目指す人だけでなく、生涯美術を愛好する「アーティスト=みんな」を育てることを目標としています。毎回一つの題材を取り上げ、高校生や一般の読者には実際に制作できるように図や写真で解説し、また先生方のために指導例を載せています。第1回目は、テラコッタ粘土とセメントで作るランプシェードです。今後、できるだけ多くのジャンルを取り上げていきたいと考えており、これまで美術に苦手意識をもってこられた方にも読んでいただけたら幸いです。

●今後の題材

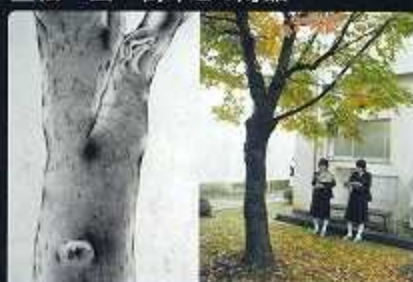
■彫刻・工芸—オカリナづくり



■版 画—コラグラフ



■絵 画—樹木との対話



■彫刻・絵画—粘土によるスケッチ



■メディア表現—パソコンでアニメづくり



■鑑 賞—絵画に飛び込む



二足の草鞋は履く方がいい

教育者であるとともに、表現者でありたい。

芸術は心を解放してくれる

生涯芸術を愛好することができたら、幸せである。

真の芸術家は、平和を愛す

みんながアーティストになれば、世界は平和になる。



奈良県立桜井高等学校

中川 賀照

1954年 奈良県生まれ
 京都教育大学教育学部美術・工芸専攻科彫塑専修
 奈良県立高等学校教諭
 奈良県立教育研究所研究指導主事
 奈良県社会教育センター専門員
 現奈良県立桜井高等学校教諭
 テラコッタ造形作家
 個展3回、グループ展多数
<http://www.013.upp.so-net.ne.jp/gasho/>

テラコッタ粘土でランプシェードを作ろう!!

準備するもの

テラコッタ粘土1kg(ミニ煉瓦約500個分)、手板(22.5×33×0.9cm)、たたら板(5mmと7mm厚)、しっぴき、麵棒、タッパー、アルミホイール、つまようじ、接着材(生セメント又は木工用ボンド)

STEP 1



●アイデアを絵に表そう

完成したらどこに置こうか。あれこれ思いを巡らすのはとても楽しい。

生徒のアイデアスケッチ



ポイント

- 安定して置ける形に
- 光が作る形を効果的に
- ランプのコードの穴
- 必要なパーツを考える
- パーツの接着面を大きく



STEP 2

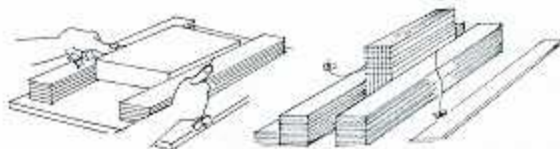


●ミニ煉瓦を作ろう

粘土の両側にたたら板を重ねて、しっぴきを両手でしっかり持ち、親指で押さえながら手前に引いて切ります。たたら板の厚みの粘土板ができます。スパッと切れる爽快感が何ともたまらない。



縦、横と順に切っていくと、一度にたくさん作れます



●透かし彫りや手捻りで作る

透かし彫りは、たたら板を使って粘土板を作り、針で模様を切り抜きます。



粘土は焼くと約15%縮みます

セメントを使って、耐水性抜群の本物志向!!

STEP 3



●焼成しよう

粘土を乾燥させ、約800～900℃で焼成素焼きします。テラコッタ粘土には、鉄分が多く含まれているので、焼くと暖かみのある赤色になります。窯がない場合は、低温での焼成なので野焼きや煉瓦を積んだ手作りの窯でも焼くことができます。今後、「オカリナづくり」などの機会に紹介したいと思います。



STEP 4



●組み立てよう

粘土を乾燥させ、約800～900℃で焼成素焼きします。セメントは使う分量だけアルミホイルに入れ、水を少しずつ入れながらつまようじでかき混ぜ、ソフトクリーム状にします。パーツは水でよく湿らせて、セメントの水分を吸われないようにします。固まるまで1日ほどかかりますので、じっくりと取り組んでください。セメントに即乾剤を入れると早く固まります。木工用ボンドの場合は、接着部分が透明になります。



ポイント

組み立てているとき、新しいアイデアがひらめいたときは、あまりもとの形や考え方にとらわれず、どんどん造り変えていきましょう。



つまようじ/アルミホイル



スポイド(しめらせるため)



LANPSHADE

ランプシェードの制作

題材のねらい

テラコッタ粘土やセメントなどの本物の材料を用い、制作を通してその性質を理解しながら、生活にぬくもりを感じさせてくれるランプシェードを作る。

■全14時間

時間	学習内容	評価の観点	評価方法
2	ランプシェードの仕組みと役割を知り、作りたいもののイメージを広げるために、アイデアスケッチをする。	ランプシェードに関心を持ち、自分から進んで資料を調べたり、アイデアを考えたりしている。 (関心・意欲・態度)	説明時の観察記録
2	テラコッタ粘土を用い、しっぴきやたたら板を用いて部品を作り、乾燥後、電気窯で焼成する。	ランプシェードからもつ印象を大切に、それらの特性を自分の作品に生かしている。 (芸術的な感受や表現の工夫)	制作過程の記録
10	アイデアスケッチを基に、各パーツをセメントや木工用ボンドで接着していく。	粘土の扱いや素焼きの基礎的な知識を理解し、資料を参考にして、自分の作りたい形に適したランプシェードの組み方を考えたり、作る中で発見したりしながら、造形を進めている。 (創造的な表現の技能)	作品(観点別) ■アイデアスケッチ ・構造理解 ・形のバランスや美しさ ■作品 ・堅牢性、構築性 ・デザインの美しさ ・接着剤の使い方 ・総合的な表現技能
	制作が進むにつれ、新しい積み方や組み方を見つけ出すことがある。あまり元の形にこだわらず、どんどん発展していけるようにする。	自分の作品を遠くから眺めてみたり、他人の意見を積極的に聞いたりして、自分の表現したいものになっているか確かめるとともに、他の作品の成功例から学んでいる。 (鑑賞の能力)	作品の感想文



※立体作品のデジタル画像化

デジタルカメラで作品を多方面から撮影し、パソコンで立体画像として鑑賞できるようにした。他の生徒作品をいつでも鑑賞できるように、美術教室にパソコンを常設している。(インターネットに接続できるので、資料の収集も可能)

■題材開発上の留意点

- 既存の施設設備をフルに活用すること(陶芸用道具一式、電気釜、移動可能な乾燥棚等)
- 生徒が長期の間じっくりと取り組み、準備と片付けが効率よくできること
- 生徒に興味や関心を湧かせ、意欲的な学習となるようになるべく新規の素材を用いること
- A表現の「絵画・彫刻」と「デザイン」を一体的に扱うことができる題材であること
- 作品について互いに批評し合う学習を取り入れることに配慮すること

■この題材の魅力

- 創造的な面と作業的な面が適度に組み合わせられた題材で、誰にでも取り組みやすさがある
- 部品の組み合わせの際に、規則を見つけたり組み合わせを考えたりする楽しさがある
- 粘土とセメントの性質を理解でき、火や水に強いので実用的で半永久的に飾って楽しめる
- 身近な煉瓦を使った造形物に関心をもてるようになる

■主な準備物



セメントは必要分だけ作り、余った分はまとめて処分する



セメント、アルミホイルなど



たたら板、しっぴき、藁棒



制作途中の作品を入れる棚



LAMP SHADE

